

# 第3章 環境施策の進捗状況

## 1 脱炭素社会の実現

### (1) 温室効果ガス排出削減の推進

目標項目	目標	目標の達成状況			評価
		2013年度 (平成25年度) (基準年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	
市域の温室効果ガス総排出量	2030年度までに50%削減 (2013年度比)	2,076 万トン-CO <sub>2</sub>	1,704 万トン-CO <sub>2</sub> ▲17.9%	2023年度に 算定予定	・令和4年10月に策定した「大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕(改定計画)」に基づき、新たな目標の達成に向けて引き続き取り組みを進める。
市役所の温室効果ガス総排出量 <sup>(注)</sup>	2030年度までに 大阪市事務事業 (大阪広域環境施設組合を除く) 50%削減 (2013年度比)	53.5 万トン-CO <sub>2</sub>	35.5 万トン-CO <sub>2</sub> ▲33.6%	35.9 万トン-CO <sub>2</sub> ▲32.9%	・2021年度は、電気事業者の排出係数の上昇や焼却ごみに含まれるプラスチックごみの増加により、大阪市全体で4.1万トン-CO <sub>2</sub> の増加となった。 ・引き続き目標達成に向け、「大阪市地球温暖化対策実行計画〔事務事業編〕(改定計画)」に基づき、取り組みを進める。
	2030年度までに 大阪市及び大阪広域環境施設組合事務事業 34.5%削減 (2013年度比)	98.6 万トン-CO <sub>2</sub>	79.7 万トン-CO <sub>2</sub> ▲19.2%	83.8 万トン-CO <sub>2</sub> ▲15.0%	

(注)市役所の温室効果ガス総排出量については、電気事業者別の調整後排出係数を用いて算定した値。

### (2) おおさかスマートエネルギープランの推進

目標項目	目標	目標の達成状況			評価
		2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	
自立・分散型エネルギー導入量 (太陽光発電、燃料電池、廃棄物発電等導入量)	2030年度までに250万kW以上	—	191.3万kW	2023年度に 算定予定	・目標達成に向け、「おおさかスマートエネルギープラン」に基づき、取組を進める。
再エネ利用率 (電力需要量に占める再生可能エネルギー利用率)	2030年度までに35%以上	—	22.7%	2023年度に 算定予定	・目標達成に向け、「おおさかスマートエネルギープラン」に基づき、取組を進める。
エネルギー利用効率 (大阪府内総生産あたりのエネルギー消費量)	2030年度までに40%以上改善 (2012年度比)	—	約14%改善 (2018年度)	2023年度に 算定予定 (2019年度)	・目標達成に向け、「おおさかスマートエネルギープラン」に基づき、取組を進める。

## 2 循環型社会の形成

目標項目	目標	目標の達成状況			評価
		2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	
一般廃棄物の減量化	ごみ減量目標・2025年度の年間ごみ処理(焼却)量:84万トン <sup>(注)</sup>	93万トン	86万トン	86万トン	・令和3年度は、昨年度大幅に減少したままの水準で推移しているが、一時的な現象であると考えられる。 ・「大阪市一般廃棄物処理基本計画」に基づき、取組みを進める。

(注) 2020年3月改定の「大阪市一般廃棄物処理基本計画」の目標である。

## 3 快適な都市環境の確保

### (1) 大阪市生物多様性戦略に基づく取組みの推進

目標項目	目標	目標の達成状況			評価
		2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	
自然や生き物を身近に感じる市民の割合	2030年度までに50%以上にする。	37.8%	42.6%	40.2%	・過去3カ年は増減している。 ・引き続き「大阪市生物多様性戦略」に基づき、取組みを進める。

### (2) 都市景観の保全と創造

目標項目	目標	目標の達成状況			評価
		2012年度 (平成24年度) (基準年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	
都市公園の市民一人あたり面積	2015年度末 <sup>(注)</sup> :約3.6m <sup>2</sup> 2025年度末 <sup>(注)</sup> :約4.0m <sup>2</sup> 将来:約5.0m <sup>2</sup>	3.51m <sup>2</sup>	3.48m <sup>2</sup>	3.50m <sup>2</sup>	・公園面積は増加しているが、人口も増加しているため、近年は横ばい状態である。 ・引き続き公園緑地の拡大に努める。

(注)「新・大阪緑の基本計画」において設定している達成指標。

### (3) ヒートアイランド対策の推進

目標項目	目標	目標の達成状況			評価
		2017年度 (平成29年度) (2015~2019年度)	2018年度 (平成30年度) (2016~2020年度)	2019年度 (令和元年度) (2017~2021年度)	
熱帯夜日数 (5年移動平均) <sup>(注)</sup>	2025年(2023-2027年)の地球温暖化の影響を除外した熱帯夜日数を2000年(1998-2002年)の46日より3割減らす。	39日	42日	41日	・熱帯夜日数は、基準年の2000年と比べて減少しているが、依然として高止まりの状況である。 ・引き続き、「おおさかヒートアイランド対策推進計画」に基づき、取組みを進める。

(注) 年平均気温の長期的な傾向を把握するため、その年および前後各2か年を含めた5年間の平均値として示したもの。

(4) 都市環境の保全・改善の取組み

目標項目	目標	目標の達成状況 <sup>(注2)</sup>			評価	
		2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)		
大気環境						
(注1) 一般局	二酸化窒素	環境基準の達成 (100%)	100%	100%	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浮遊粒子状物質、微小粒子状物質については目標達成、二酸化窒素については、一部非達成の地点が存在する。</li> <li>・光化学オキシダントについては全局で環境基準を非達成となったが、その原因物質とされている窒素酸化物及び揮発性有機化合物(非メタン炭化水素を含む)の排出量については減少傾向にある。(注3)</li> <li>・引き続き、目標の達成維持に努めるとともに、非達成項目については、早期達成に努める。</li> </ul>
		大阪市環境保全目標の達成(100%)	92%	92%	100%	
	浮遊粒子状物質	環境基準の達成 (100%)	100%	100%	100%	
	微小粒子状物質	環境基準の達成 (100%)	100%	86%	100%	
	光化学オキシダント	環境基準の達成 (100%) <sup>(注3)</sup>	0%	0%	0%	
	非メタン炭化水素	大阪市環境保全目標の達成(100%)	0%	0%	0%	
(注1) 自排局	二酸化窒素	環境基準の達成 (100%)	100%	100%	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、目標の達成維持に努めるとともに、非達成項目については、早期達成に努める。</li> </ul>
		大阪市環境保全目標の達成(100%)	64%	82%	82%	
	浮遊粒子状物質	環境基準の達成 (100%)	100%	100%	100%	
	微小粒子状物質	環境基準の達成 (100%)	80%	80%	100%	
	光化学オキシダント	環境基準の達成 (100%) <sup>(注3)</sup>	—	—	0%	
	非メタン炭化水素	大阪市環境保全目標の達成(100%)	0%	0%	0%	
水環境(生活環境の保全に関する環境基準)						
河川	全河川のBOD	環境基準の達成 (100%)	97%	100%	97%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の河川において未達成の地点あり。</li> <li>・引き続き、目標の達成維持に努めるとともに、未達成河川については早期達成に努める。</li> </ul>
海域	海域のCOD	環境基準の達成 (100%)	100%	100%	100%	
水環境(人の健康の保護に関する環境基準)						
人の健康の保護に関する環境基準達成状況		環境基準の達成 (100%) <sup>(注4)</sup>	100%	100%	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全地点で目標を達成。</li> <li>・引き続き目標の達成維持に努める。</li> </ul>

(注1) 一般局：一般環境大気測定局、自排局：自動車排出ガス測定局

(注2) 表中の数値は、〔目標達成局(地点)数/測定局(地点)数〕×100を示す。ただし、「水環境(人の健康の保護に関する環境基準)」は、〔目標達成項目数/測定項目数〕×100を示す。

(注3) 光化学オキシダントについては、全国的にも環境基準達成率が極めて低い水準(2020年度の達成率は一般局 0.2%、自排局0%)となっており、国は光化学オキシダントの改善傾向を評価するための指標の検討を行うとともに、越境大気汚染への対策や科学的知見の充実等を図ることとしている。大阪市は発生源対策を通じて環境濃度の改善をめざす。

(注4) 水環境(人の健康の保護に関する環境基準)については、自然的要因(例、海水の影響)による環境基準の超過は除く。

目標項目	目標	目標の達成状況 <sup>(注)</sup>			評価	
		2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)		
ダイオキシン類						
大気	環境基準の達成 (100%)	100%	100%	100%	・全地点で目標を達成。 ・引き続き、目標の達成維持に努める。	
公共用水域 水質		河川	95%	100%		100%
		海域	100%	100%		100%
底質		河川	90%	90%		100%
		海域	100%	100%		100%
地下水質		100%	100%	100%		
土壌		100%	100%	100%		
自動車騒音						
自動車騒音に係る環境基準達成状況	幹線道路沿道住居における環境基準達成率の上昇等	95%	93%	—	・長期的には改善傾向だが、近年は横ばい状態。 ・「大阪市環境基本計画」に基づき、取組みを進める。	

(注) 表中の数値は、〔目標達成局(地点)数/測定局(地点)数〕×100を示す。

#### 4 すべての主体の参加と協働

(大阪市の率先行動)

目標項目	取組項目	基準値 (2013年度) (平成25年度)	目標値	実績値 (2021年度) (令和3年度)	達成/ 未達成
大阪市役所の 環境負荷の低減	温室効果ガス 総排出量	100.1万トン-CO <sub>2</sub>	2025(令和7)年度に平成25年度比25%以上削減	84.8万トン-CO <sub>2</sub> (基準値から▲15.3%削減)	—
	コピー用紙使用量	254,533千枚	基準値以下	262,586千枚 (基準値から3.2%増加)	未達成
	上水使用量	9,844,504 m <sup>3</sup>	基準値以下	5,996,022 m <sup>3</sup> (基準値から39.1%削減)	達成
	廃棄物排出量	40,237トン	基準値以下	36,704トン (基準値から8.8%削減)	達成

- ・ 大阪市内環境管理計画(令和3年3月策定)による取組み。
- ・ 温室効果ガス総排出量は大阪広域環境施設組合を含み、電気事業者別の基礎排出係数を用いて算定した値。
- ・ 廃棄物排出量の平成25年度基準値には、公園事務所から発生する「木くず」及び浄水処理過程で発生する「浄水発生土」が含まれていないため、令和3年度実績値も「木くず」(6,245トン)、「浄水発生土」(9,930トン)を控除し比較している。